

第7回 キーパープロショップ研修会を開催

キーパープロショップは、2009年10月末現在1,075店舗を超え、各地域において、日本国中において、とても目立つ存在になりつつあります。

そのキーパープロショップ店が定期的集まるキーパープロショップ研修会も第7回目を数え、11月10日までで全国17会場の開催が終了しています。

今回特に、各会場とも非常に参加率が高く、参加者の意識がとても高い、活気と真実さ溢れる研修会となっています。

これは、日々、お客様の大切な車を1台1台「キレイにする」という活動を通じて得られた経験、お客様からいただいたたくさんの喜びの声、感動の表情が可能性を感じさせ自信となり、もっとお客様の期待に応えたいという想いとなっている現われだと感じます。

今回の研修会の内容は、最新の消費者アンケートを実施して、そこから導き出されたお客様の意向を分析。さらにアンケートから見て、非常に大きな可能性を持つ「クリスタルキーパーガラス」の提案を中心に新技術（ヘッドライトクリーン&プロテクト）、新TVCM、成功事例の発表、グループディスカッションなど、非常に内容の濃い研修会となっています。

1,000軒を超え、非常に目立つ存在となったキーパープロショップ。

そんな大きな存在になった今だからこそ、「お客様が本当に安心して大切な車のコーティングを任せられる店舗を」というキーパープロショップの原点を全店で再確認して、研修会を通じてさらにレベルアップしていきたいと考えています。

【東海ブロック会場】



【北海道ブロック会場】



【北陸ブロック会場】



【四国ブロック会場】



来年3月をめどにキーパーのロゴがリニューアルされます!

～VIの確立に向けて～

アイ・タック技研(株)は現在VI(ブランドアイデンティティ)を進めております。

今現在キーパーのロゴは「KeepPre」となっていますが、キーパーの普通の英語読みである「Keeper」、つまり「re」を「er」に変更し、商標を取得する予定です。「Keeper」の方がすんなりと「キーパー」と読めるため、今後キーパーの認知を広げていくことを考えると「Keeper」と変更をすべきではないかと考えたからです。今、消費者アンケートを取って意識調査をしております。順調に行けば、今年12月末をめどに方向性を決定し、来年3月にはロゴの変更を正式に実施したいと考えています。

ロゴのイメージ全体としては大きく変える予定はありませんので、現在皆さんが使っている看板等の広告物を、そのまましばらく使っていてもおかしくないように配慮します。しかし、ロゴの変更によってその後に費用が大きくなってしまふような広告物として寿命の長い看板などの作成はご注意ください。

しかしこれから12月を間近に迎え、広告物を充実させて店舗としての訴求力を高めたい時期であります。そのために比較的使い捨て要素を持っている「キーパープロショップ統一ノボリ」と「キーパーノボリ」、「各種POP」を特別価格でお渡しできるようにいたしました。ぜひご活用ください。

キーパープロショップ・キーパー施工店 全国統一キャンペーン 2009年の年末、街中がKeepPreで染まる!

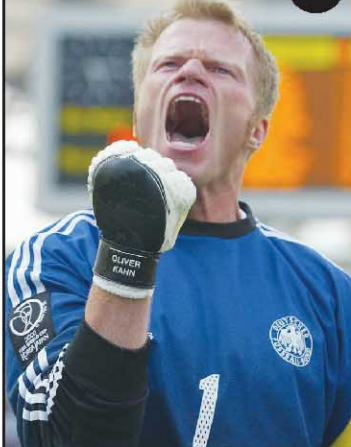
全国約1,100のキーパープロショップと6,000の施工店を対象とした全国統一キャンペーンを企画しました。キーパーのロゴとオリバー・カーンを大きく打ち出した新デザインのノボリと店内POPを制作、全国のキーパープロショップ・キーパー施工店に特別価格にてご提供します。

2009年の年末は、全国一斉にこのノボリを掲げ、皆さんと一緒にキーパーを盛り上げていきたいと考えています。新しい年を迎える前に、より多くの方にキレイな愛車を実感していただきたいと思っております。



キャンペーンの詳細・お申込みは、
本紙に同封の「販促ツールカタログvol.4」をご覧ください。

オリバー・カーンの時代 その8



カーン グローブを選ぶ

キーパーグローブをご存知だろうか。ゴールキーパーが試合中にはめているグローブのことである。手の大きさに比べるとなんと大きいものだろう、と思う。男性の顔が充分に隠れるほどだ。このグローブは、手のひら側に特殊な加工がしてある。粘性のある素材が貼ってあるのだ。もちろん、つかんだボールが滑ってしまわないようにである。インチキくさいと思うなかれ。現代のサッカーボールはツルツルした合成皮革のパーツを貼り合わせ、その合皮のパーツとパーツの間にあるはずのつなぎ目がほとんどないようになっている。表面にでこぼこがほとんどないのである。これではキーパーに不利だ。それで、このような粘性素材を貼り付けることが許されている。サッカーはボール一つあればできるスポーツとは言え、さすがにプロの世界はそう簡単ではない。

サッカーは降雨でも試合をする。当然、濡れたボールは滑る。だが、ゴールキーパーは、試合の途中から雨が降り出してもグローブを取り替えるということはまずない。せいかくつかめたのに滑ってしまい、無情な得点が生まれることもある。仕方がないこと、これはうるさいサポーターでさえもあきらめるものだ。だが、カーンは、グローブにこのほかうるさかった。強度、甲の素材の厚さ、縫製など全てにおいて非常に神経質だったのである。新しいグローブが届き、さっそくはめてみる。そこで手にフィットしなければ、たとえ1ミリに満たないほんの微妙な差であっても、違和感を感じれば、その違和感が感じなくなるまで契約している世界的なメーカーに何度もグローブを作り直させた。異常なまでのしつこさ、いや熱意と言うべき

だろう、断固たる意思で、晴天でも雨天でもグリップ力が変わらないグローブを要求し、作らせたのである。カーンの厳しい要求に合わせた世界にたった一つだけのグローブである。弘法筆を選ばず、の反対、カーングローブを選ぶ。そのこだわりは、ドイツのゴール、バイエルンミュンヘンのゴールはオレが守る、という断固たる意思によるものであった。プロ意識というものは、そういうものでもあるのだろう。

